

2013年9月24日
第18号

自然と文化だより

発行:NPOシニア自然大学校
自然と文化科

*****目次*****

- P1 新任幹事のコーナー
「自然観察会」 観察委員会
P2 今号の TOPICS
野山の秋の風物詩「ススキ」
P3 仲間たちの近況報告(1)
1班 「秋の七草」に想う
2班 ルドゥーテのバラ
P4 仲間たちの近況報告(2)
3班 サルスベリ
4班 フニーバオバブ
P5 リレー随筆西洋ミツバチ飼育
5年目の雑感
自由題; 草抜き考
P6 俳句・川柳・絵画サロン
自由題; ラジオ体操の勧め

◇自然と文化だより

18号に投稿頂いた皆様、有難うございました。新しいコーナーに自由題として2編今回掲載いたしました。「私のレシピ」「とっておきのショット」など考えていますのでどしどし投稿ください。猛暑もようやく去り仲秋も過ぎました。この夜長を読書に、テレビの映画鑑賞に存分に楽しむことが出来ます。「風立ちぬ」のあとがないのが寂しい限りです。宮崎駿さん、ありがとうございました。じっくり全部、観なおします。

N.Take



新任幹事のコーナー 自然観察会

3班 溝部 浩二

今年4月から観察委員会の専任幹事になって半年が経ちました。何とかやって来られたのも、役員や観察委員会メンバーの皆様のご支援の賜物と感謝しています。これまでの自然観察会では、お膳立てしてもらった企画に乗って楽しんでいましたが、世話役の役割を担うようになると、どのような自然観察会がいいのだろうか、自分なりに少し考えるようになりました。

今年2月に観察委員会が行ったアンケートからも分かるように、自然観察会のありようとして、一つはハイキング要素を取り入れた季節に合った観察会です。みんなでワイワイ言って同定しながらの観察会ですが、できれば旬の花など目玉になるようなものがあつた方が望ましい。地層や昆虫なども観察して、自然を楽しみながら山や森を散策するスタイルです。シーズンに応じて行先は大体決まりますが、ただ同じところばかりだとマンネリ化するので、新しいところへ行きたいと思うようになります。この場合、電車で直接行けない場所だと、70人近い人数で行動するので路線バスの利用は難しく、貸し切りバスやその他の手段を検討する必要があります。候補地を選ぶにも制約がありますが、今年度は新しいところへ2~3ヶ所行ってみたいと思っています。

次にもう一つの観察スタイルは、定点観察で、季節に応じた植物の生き様と変化を観察するものです。定期的に同じ場所で、樹木なら同じものを観察しますが、時々、「同じ場所で、同じ木ばかり見て、どこが面白いのか」と聞かれることがあります。冬芽から始まって、シュートの展開、開葉、開花、結実など、樹木のさまざまな生活状況を時間的な流れの中で観察することによって、植物の生き様を理解できます。また、植物の生活している場所を観察すれば、植物達のせりあいや、住み分けしている状況なども知ることができます。今年度は調査委員会が武田尾で草本の定期的観察を始めましたが、今後、観察委員会としても、当科の拠点である箕面や武田尾で、定期的に観察を行う態勢を検討したいと思います。

様々な地域へ出向いて散策しながら行う観察会と、植物の生態を季節的に定点観察する観察会、両者のバランスを取りながら、自然観察会をより楽しく、有意義なものにしていきたいと思っています。

野山の秋の風物詩「ススキ」

猪狩 美枝子

もし宇宙人がいたら、SF 映画のような人や動物のような姿ではなく、草をそよがす風のような存在で、草が微かに動くとホラそこにいるような… 山の上の草原に立ち、一面のススキの原全体が大きな銀波のうねりとなってそよぐ様を見ていると、昔読んだこんな話が現実味を帯び、本当に何かとてつもない生き物が迫ってくるかのような錯覚に囚われそうになる。フーッとして足下を見るとナンバンギセルの可愛い花が！

「道の辺の尾花が下の思い草 今さらさらに
何をか思はむ」

＜万葉集＞

「おもひぐさ」とはナンバンギセルのことで、万葉の昔からススキもその根元に寄生するナンバンギセルも身近な存在だったのか、と思われる。



ススキを知らない人はいないくらい全国に生育し、古くは古事記や日本書紀にも見られる。

イネ科の多年草で日本固有種かと思われるが、さにあらず。学名は *Miscanthus sinensis* で種名の *sinensis* は“中国の”という意味で中国、台湾、朝鮮半島まで分布している。

ススキの「スス」は細い意味の「細小（ささ）」あるいは「笹（ささ）」の変形。「キ」は「茎」「草」の意味。また「スクスク生い茂る」意味からきているとの説もある。別名のカヤは刈って屋根を葺くから、尾花は花穂が獣の尾に似ていることからきている。

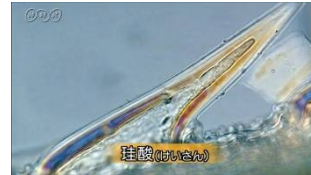


花卉の無い雄しべと雌しべだけの地味な花、実っても色の無い白い穂だけのススキを古くから歌に詠み、飾って愛でてきた日本人ならではの美意識にあらためて感心する。

子供たちにススキの葉で手を切らないように注意する時、「葉っぱの縁のギザギザは鋸の刃のようでガラスと同じ成分でできていて硬いよ。」と説明すると皆一斉に「へえ〜！」と驚く。葉のこのような性質は食害から身を守るためと、葉を立たせる

ためと考えられる。ならば、ススキを食べる動物の口の中はどうなっているのか？

イネ科植物は吸い上げた水分の中の珪酸という物質を機動細胞に蓄積する性質がある。細胞に溜ま



った珪酸は細胞内で一つの固まり、珪酸体となる。イネ科植物が枯死した時、有機物は土に還るが、珪酸体はガラス質のため腐

らず土壤中に化石として残る。これをプラントオパールと呼ぶ。プラントオパールは植物の種類によってその形状が違う。（余談であるが、これを利用して稲作の起源が調べられている。稲作は弥生時代から、少なくとも縄文晩期後半からという定説が崩れ、縄文稲作の存在が明らかとなってきている。またこのプラントオパールにセシウムと結合する性質があることが発見された。この性質を利用して福島原発事故の除洗に応用できるのでは、と期待されている。）

ガラスと同じ成分ならススキでガラスはつくれないか、と考えた人がいる。5kgのススキを燃やし灰にして、るつぼと呼ばれる容器に入れ、さらに1250℃の火で2時間燃やす。すると茶色い物が容器の底に溜まる。これがガラスだ。確かにススキからガラスはできたのだ。

ススキは昔から茅葺き屋根、飼料、堆肥などに利用され、農村ではこれらを調達するためにカヤ場が維持されてきた。茅場は人の手で維持しなければすぐに雑木林になってしまうことから、毎年山焼きすることでススキの草原を維持している。しかし現在はススキが利用されなくなってきて、ススキの草原はスキー場や観光地化している所に僅かに残っているだけとなってきている。

この秋は久し振りにススキの草原に出かけ、銀波をかき分けながら遙か彼方の星の住人と語り合ってみようか？！「地球の自然は大丈夫？」って聞かれたら、ハテサデ何と答えようか。

関西のススキの名所

- ・砥峰高原
- ・葛城高原
- ・曽爾高原
- ・奥香落高原
- ・青山高原
- ・生石高原



「秋の七草」に想う

1班 清水 忠

図書館で有岡利幸著「秋の七草」が目に入り、借りて読んだ。シニア自然大学高等科時代に大阪府老連の幹部研修の万博公園で「秋の七草」をインプリした想いと、秋に咲く草花は数あるなかで、秋の七草として定着したのは何故か知りたかったからである。

万葉の時代に山上憶良が詠んだ2首の歌がその由来とされている。「秋の野に咲たる花を指（をよび）折りかき数ふれば七種の花」（万葉集・巻八 1537）「萩の花 尾花葛（くず）花 瞿麦（なでしこ）が花 姫部志（をみなへし） また藤袴 朝貌の花」（万葉集・巻八 1538）

春の七草は邪気を払い万病を除く占いとして食べる。秋の七草に直接何かをする行事は特にないが、秋の野の花が咲き乱れる野原の花野を散策して、短歌や俳句を詠むことが、古来より行われていたことから、秋の七草は鑑賞するものであったと記されている。しかしながら、7種の植物はいずれも古来は日本人の生活と深い関わりをもっていた。女郎花は万葉の昔から愛されて、前裁、切花などに用いられ、花は生薬として根は漢方薬として使われた。尾花はかつて茅と呼ばれ、農家の茅葺き屋根の材として使われ、牛馬の厩に敷き、糞尿を含ませ堆肥として田畑に使用した。桔梗の根は万病薬として重用され、食用としても若芽と根はくせがないので山菜として万人に好まれていた。日本女性の清楚な美しさを譬えて「大和撫子」と言うが、大伴家持が「君はなでしこが花に比へて見れど」と詠ったことから発している。また、病を治す薬用植物でもあった藤袴はキク科で香りがよいため、中国では「蘭草」と呼んでいるが、日本の貴婦人たちは好んで香料として使用していた。今、日本では植生地を失い絶滅危惧種になっている。葛は衣食や馬のオコワと言われるほど栄養価が高く、家畜の餌として利用され、薬用にかかわる有用植物としても古くから役立てられた万葉植物の一つである。葛の根から採る漢方薬の葛根湯や葛粉は馴染み深い。萩は里山の植生で、草刈に邪魔になる茨や灌木などの侵入を防ぐことが目的で植えられた。

燃料革命と肥料革命で里山が荒廃し、やがて生育に十分な陽光を必要とする秋の七草のほとんどが、里山から姿を消してしまう時が来るのではないかと近くの里山を観て考えてしまう。

ルドゥーテのバラ

2班 藤原 雄平

悪妻と呼ばれる女性は、洋の東西、時代の今昔を問わずいるものですが、哲学者ソクラテスの妻クサンティッペ、作曲家モーツアルトの妻コンスタンツェ、文豪トルストイの妻ソフィアの3人が世界の3大悪妻ということになっているようです。そして彼女たちに次ぐ位置にランクされているのが皇帝ナポレオンの先妻ジョゼフィーヌ。彼女が悪妻と呼ばれるのは浪費癖と不貞のためらしく、戦場で戦うナポレオンから送られてくる膨大な恋文に1通の返信もせず、若い兵士と浮名を流したことが周知となり、後継ぎに恵まれなかったこともあって離縁されてしまう。そんなジョゼフィーヌですが、一方、彼女は大の植物好きで、居城マルメゾン（浪費の代表例）の庭で海外の珍しい品種を含むたくさんの植物を栽培しました。とりわけ彼女が熱中したのがバラでした。

過日、大丸心斎橋店で「ルドゥーテのバラ図譜」展が開催されました。チェンバロの生演奏が流れる会場は、女性の入場者で大半が占められており、いつもの絵画展とは少々雰囲気が違うように感じます。絵の習いごとの参考にと、始めの数枚は丁寧に観ましたが、延々と続くバラの花にすぐに辟易しました。何と196枚のバラの花絵です。1絵に1種が細密画で見事に描き分けられており、バラの愛好家なら同定ができるのではと思われます。そのバラの全てが、マルメゾンの庭でジョゼフィーヌに育て



られたのです。ルドゥーテは彼女のお気に入りの画家でした。孤独のジョゼフィーヌを慰めようとしてルドゥーテは「バラ図譜」の制作を目論んだのですが、残念ながら完成を見ずにジョゼフィーヌは病没。しかし、残された

「バラ図譜」は“バラを愛でた人”という彼女のイメージアップに今も貢献しているのです。

サルスベリ

3 班 溝部 浩二

夏の暑い日に咲くサルスベリの花を見ると、ときどき思い出すことがあります。今から3年前の高等科に入った夏のこと。本科からエスカレータ式に高等科へ進み、特に興味あることも見つからず、これから何をしようかなあーと考えていた頃です。その日は日曜日で、所属する地元のクラブが主催するファミリー観察会を終えて、仲間数人といつものようにビールを軽く飲んだ後、1年先輩の人と一緒に帰りの電車に乗りました。車内は空いていて涼しかったのですが、外はまだ日も高く、真夏の太陽が照りつけて暑そうでした。ぼんやりと外の景色を眺めていましたが、駅に電車が止まった時のことです。ふとホームの向こうを見ると、真夏の太陽を受けた真っ白い花が目いっぱい飛び込んできました。目にも鮮やかな白い花に、思わず私はつぶやきました。



「えらいきれいな花やなあー。」すると、横に座っていた先輩が、「あんたも、あのようなものを見て、きれいに思う年になったんだな。」と、私の顔を覗き込むように言いました。

その言葉に私は、はっとしました。なぜか分かりませんが、自分自身が腑に落ちて、落ち着いた納得した気持ちになりました。先輩は、あれはサルスベリの花で、夏から秋にかけて長い間咲いている花だと言って、樹皮や葉の付き方などについて、あれこれ説明されたのを覚えています。

このことがきっかけだったと、自分では思っていますが、植物について少しずつ関心を持って観察するようになったと思います。

その夜、先輩からサルスベリの花の写真と特徴を書いたメールが届きました。



サルスベリの花は、私に植物に興味を持つようにきっかけをつくってくれた花です。

フニーバオバブ

4 班 山上 恵子

今年・平成25年8月15日の朝刊に「はじける黄色。輝き一夜限り」の見出し。

「名作『星の王子様』に出てくる巨木バオバブの一種、フニーバオバブが、大阪市鶴見緑地公園の「咲くやこの花館」で、今年は約25個の花芽をつけ、うち3個が13日夜開花した。

フニーバオバブはマダガスカル産で、1990年に移植し、2006年初開花。国内唯一の貴重な開花株で、例年8月初旬から中旬に花をつける。この花の開花が見られるのは国内で同館だけ。ナイトツアーは締め切られているが、開花の一部始終の録画を館内で公開している。

開花翌日の日中迄が見頃で、翌々日には散ってしまうという。」

電話すると「昨日又、3個開花したので、午前中にどうぞ。」の返事だった。10時過ぎに到着。

館内サボテンコーナーへ。花博でメインだった青いケシの手前の角。写真説明板の上方、頂点近くに3個離れて咲いていた。黄色のラッパが俯いている感じだった。

案内嬢の説明を聞きながら録画を見る。

「木の高さは約6m、花の直径は約10cm。高さ5m程の枝先で緑色の花芽が開き始めます。開花開始時刻は決まって19時過ぎ。まるで時計でも内蔵されているかの様な正確さで始まり、蕾の先端が割れ始めてから完全に開花する迄の時間は僅か30分です。赤いリボンの様に巻いた花びら。長く黄色い雄しべとピンク色の雌しべが、肉眼で確認できる速さで、花粉を散らしながら反り返って咲く様は一見の価値が有ります。」

月下美人は鑑賞のためとはいえ昼夜を逆にして咲かされ、純白の花は、4時間程で命を閉じる。

花の儚さ美しさ、不思議な面白さ。自然への畏怖をひと時忘れ、真夏の夜の夢を楽しみました。

西洋ミツバチ飼育5年目の雑感

2班 岡田 純子

いつかミツバチを飼ってみたいと思っていました。そんな時「人と自然の博物館」でミツバチの講座があることを知り直ちに申し込みました。講座は不思議な未知の世界で実習の蜜絞りは感動と刺されそうな不安、知識が深まるにつれて簡単ではないぞと思い始めていたときでした。

先輩の女性から飼育を手伝って欲しいとお誘いがあり一度はお断りしましたが、巣箱をみせてもらっていると、お手伝いならできるかなと思い、ミツバチを飼う事になりました。

2年目に自分の巣箱を1箱持つ事になり、生き物を飼育する事の大変さ、毎日の様に起きるハブニングにあたふたしながらの養蜂が始まりました。巣箱を置く場所は武庫川沿いの甲子園に近い大学の中庭でした。周りにはたくさんの草花が有り、武庫川の土手には甘い香りのハリエンジュ並木、巣箱の設置場所としては最高の所でした。

優秀な女王蜂に支えられながら3月から始まった1群の巣箱は2群になり、蜂は殖え続け、5月には4群にまでなり、巣箱の中が満員で暑いのか巣箱の入口には多数の蜂が風を送ったりしている様子に、頑張っているねと声をかけてやりたい思いになりました。順調すぎるスタートでした。蜜もどんどん収穫する事ができました。

巣箱はリスクを避けるために2群ごとに分けることになり、新女王を作らなければなりません。新米の養蜂には難しく、先輩の作った女王を頂く事になりましたが、新しい女王を群れに承認して貰ういろいろな方法がある事を知りました。

秋になるとスズメバチとの戦いです。スズメバチにとっては最上のご馳走のミツバチ、巣箱の前での戦いに大量に蜂を失う事になりました。巣箱は縮小の一途をたどり冬、を迎えることになりました。蜂は数が少なくなると巣箱の中心に身を寄せ合って暖をとりますが、寒さには弱く越冬する事はできませんでした。

過保護な程の手当てでやっと越冬しますが、何より数を多く残す事で巣箱は温くなり、冬を越す事が自然なのでしょう。やっと越冬に成功した時は元気で冬を越したねと蜂たちを可愛く思い、温かくなった春の日に飛び出していく姿にほっとしています。手間のかからない日本ミツバチが新しい巣箱に入ってくれないかと待っています。

草抜き考

大村 沙紀（匿名）

植物図鑑を開いても根の張り方、茎や葉の引き抜きに対する強さ、どの時期に抜くのが楽に抜けるのか、などの記載は見つかりません。従って草抜きは経験と勘で行うのが常識のようです。草抜きなんかを理屈をこねて考える人は居ないのでしょうか。ただ多くの人は「抜いたあとからあとから生えてくる雑草はたまらん！追っかけっこや！」でしょう。草抜きを効果的に行う為に、いろいろ考えてみました。

使う道具は、「てこ」を利用した根を引き上げるための道具と座っての作業で膝の負担を軽減する移動用の自作の4輪車です。草抜きに関しては晴耕雨読ではなくて晴読雨耕です。雨降りて土が柔らかい時が草抜き時、です。ずぶ濡れにはなりますが…



【チチコグサ】これは寒い頃から地面に張り付くようにロゼット様の葉が出はじめ、地下茎で横に広がって行きます。若い葉だからと言って簡単に抜けるものではありません。しっかりと根を張って横との連絡を密に取っています。気楽に葉を引くと根がそっくり残って草抜き効果なし。丁寧に一つを引き抜き、地下茎をたよりに次の株を攻略するのが正攻法です。一気に攻めようとしても一筋縄ではいきません。無駄な抵抗をやめて少ししてから抜こうなどと横着すると茎が成長し、花を付けたら相手の思う壺、引き抜くとワタ帽子を付けた種が散らばり、来年の戦略配置に付かれてしまいます。兎に角、横に広がる能力はたいしたもの。群生するのはクローンが多くを占めると思います。つぼみが出来た頃が結局一番抜き頃かも知れません。そして雨の日に。

【ウラボシチチコグサ】これもロゼット状に幼葉が出始めどんどん地を這うような茎で横に広がって行きます。チチコグサより一回り以上に大型です。ただ、この根っこはセンターになる葉の下にのみ育ち、中心を見つけて葉を持ち上げグイッと持ち上げると、いとも簡単に広がった全員を丸く広がった形のまま逮捕する事が出来る優れもの、チチコグサの様な個別の執拗さはありません。裏が白いだけあって腹黒ではありません。これを見つけると草抜きの中にオアシスを見つけた様な気分になります。努力対効果抜群の草本です。

つづく

ラジオ体操の勧め

1 班 飯田 正恒

数ヶ月まえから地域の人たちのラジオ体操グループに参加、毎朝30分の運動をしています。近隣の人々と共に行うことでなまけ心を戒め、また交流もでき、すっかり私の毎日の日課になりました。

正直なところ、それまではたかがラジオ体操と思っていましたが、最近そのよさが再認識され、全国で静かなブームになっているとのこと、カラフルな解説書が数冊、店頭の目立つ位置に並んでいます。講談社刊「実はスゴイ！大人のラジオ体操（DVD付）」によると、その始まりは昭和3年（1928）、昭和天皇



即位の大礼を記念して、逓信省（現郵政省）が「国民保険体操」として、始めました。昭和26年（1951）に、当時の専門家たちが一つ一つの動きを練りに練り、今の形になったのだそうです。始まってから85年間、国民体操として定着したラジオ体操です。3分10数秒の運動を正しく行くと「究極の全身運動」になり、美容（脂肪が燃える、美脚・小尻になる、二の腕が引き締まる、バストアップ、姿勢がよくなる、美肌になる）と健康（肩こり・腰痛改善、眠りの質が上がる、目覚めがよくなる、イライラしなくなる）に効果ありといえます。私も始めてから以前より身体が軽くなり、調子がよくて気持ちがよいことを実感しています。参加されている人たちも同じ感想をお持ちのようです。

毎日顔を合わせることで町内の多くの人を知り、親しくお話するようになりました。夏休み中は、子どもも参加し大賑わいでした。新学期が始まっても続けて参加の小学一年生と2才の姉妹は皆のアイドルです。

メンバーにシニア自然大学学校在籍者がおり、その人の案内で近くの山（芝谷の森）や伊吹山で自然観察会を行ったところ、多くの参加がありました。この秋には、高槻市の今城塚古墳や博物館を案内する予定です。体操で健康増進し、同時に地域の人々との交流が進むこの集まりをずっと大切にしたいと思っています。

だれでもいつでもすぐにでき、健康に役立つラジオ体操を皆さんもいかがですか。

2013秋俳句

池田炭

梅桜間を取り持つ桃の花

山上 恵子

月光を聴いてる浴びてるまどろみて
減るものじゃなし松茸の香り嗅ぐ
蕎麦の花白馬に白を添へて咲く
営みの透け見ゆときも秋暖簾
一茎の草の高さの秋の風

谷坂 修二

風の道透して涼しゴウヤ棚
余るほど採れる菜園秋の味
カブトムシ糞にまみえて人気者
炎暑でも汗滝にして山登り

川柳

池田炭

木々を見て同定せずば進まれず
木々を見て同定できず多数決
DNA 親から引き継ぐ 花粉症

4班 岩城 正大 水彩画「栗」



自然と文化だより

皆様のご協力により18号が発行出来ました。次号をお楽しみに！（広報委員会）

「私の玉手箱」はお休みです。